

取組紹介【香川県】

1、はじめに

いじめは「決してゆるされない」ことである。一方、いじめは「どの子どもにも、どの学校でも起こりうるもの」である。香川県では、この基本的な考え方にに基づき、いじめの未然防止と傍観者を生まない集団づくりを目的とした「いじめゼロ子どもサミット」を開催している。ここで言う「ゼロ」とは、子どもにとっては「いじめゼロ」を目指して活動することであり、教員にとっては「見逃しゼロ」、社会にとっては「無理解・無関心ゼロ」を意味している。

2、いじめゼロ子どもサミットについて

【ねらい】

平成 21 年度から、3年に1度開催している。いじめに最も近く人数も多い傍観者がいじめ防止の鍵を握ると考え、いじめを深刻なものにしないための手立てやいじめを許さない正義や勇気について話し合ってきた。県内小・中学校の児童生徒が中心となって、企画から運営まで子どもたちの手で作りあげる自主的・自発的活動が、香川県ならではの特徴である。

【サミットでの主な取組（例）】

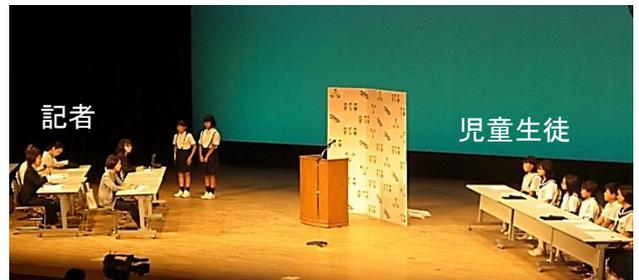
(1) いじめゼロ宣言の作成 (2009)

サミットを踏まえて作られた宣言で、いじめ STOP に向けた思いが初めて形となる。今も県内の小中学校の各教室に掲示されている。



(2) 子ども記者会見の実施 (2012)

「いじめゼロのためにできること」をテーマにテレビ局や新聞社を集めて、公開記者会見を行い、全国に自分達の意見を発信した。



(3) 劇づくりを通して議論 (2015)

いじめが起りやすい場面を演劇で問題提起し、分科会で劇の修正案を考えることを通して「傍観者」ができる有効な行動について話し合った。



(4) パレード&街頭アンケート (2018)

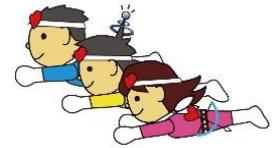
いじめ問題について、社会全体で考えるために、パレードで訴えたり、街頭アンケートで意見をきいたりしながら、その方策を検討した。



サミットのない2年間は、サミットの企画・運営に携わる実行委員を養成する「実行委員養成セミナー」を開催している。本セミナーの成果は、いじめ防止の効果的取組のモデルとして発信し、毎年11月に行っている「いじめゼロ強調週間」における各小・中学校の自発的活動へとつながり、その成果を広げている。

3、いじめゼロ強調週間について

いじめについて子どもたちが自ら考え、自分たちの手でいじめをゼロにしようとする意識を高め、自ら行動をおこす取組を、香川県内の小・中学校において集中的に実施するものである。平成 21 年の第 1 回いじめゼロ子どもサミットにおいて提唱され、現在も継続している。



各学校の取組（例）

○「問題提起の劇を見て、いじめの問題について話し合う」

いじめゼロ子どもサミット 2018 で作成した問題提起の動画や劇の台本、パワーポイント資料等を活用し、被害者、加害者、観衆、傍観者の 4 つの立場から、どのようにつながれば、いじめの問題の解決に向かうことができるか、について話し合う。いじめの問題は、一人で抱え込むことなく、みんながつながって、友達や先生、そして地域の人たちにも SOS を出しながら、みんなの問題として、みんなの力で解決に向けて取り組んでいくことの大切さについて見つめ直すことができた。

○オリジナル「コロナいじめ」防止教材の作成

本年度の「いじめ問題ワークショップ」で作成した「コロナいじめ」防止教材をもとに、生徒会を中心に本校の実態に合うように展開や発問を改良し、全校生で「コロナいじめ」を未然防止できるようにする。

○いじめゼロ宣言の採択・広報啓発

いじめゼロ子どもセミナーの街頭インタビューを通して、「自分たちのメッセージを学校外にも伝え、周りの大人も巻き込んでいじめゼロを目指したい。」という思いが生まれた。各学校においても児童会、生徒会自らが中心となり、保護者や地域に向けいじめゼロの考え方を発信した。

○いじめゼロサミット in 香西（学校名）

本県のサミットやセミナーに参加した生徒会のメンバーが、学んだことをもとに全校生に課題を与えて学期に 1～2 回程度考える会。「いじめとは何か」、「いじめの 4 層構造」、「いじめを見つけたときどうするか」、等全校生の考えを共有した上で、いじめに関する知識やよりよい対処法を伝えている。

4、本年度の取組

○コロナいじめ防止教材の作成

本年度は、コロナ禍のため児童生徒が集う「実行委員養成セミナー」が中止となった。その代替えとして、サミットスタッフを志す教員を募集し、「いじめ問題ワークショップ」を開催した。全国や香川のいじめの現状やサミットの歴史を振り返った上で「いじめゼロ子どもサミット 2022」に向けてコンセプトを話し合うとともに、コロナいじめを未然防止するための学習教材（スライド）等を作成した。教材は実態に応じて「小学校下学年版」「小学校上学年版」「中学校版」を作成し、各学校において「自分だったらどうするか」と自分事として捉え、コロナいじめの未然防止に活用された。



【参加教員が交流する様子】



【コロナ防止教材の一部】



【各学校に配布した啓発ポスター】

5、おわりに

今後もこれらの取組を通して「認知なくして対応なし」を基本に、一見些細に見えるものも幅広く認知し、深刻ないじめを減らしていきたいと考えている。